



何の数字でしょうか?

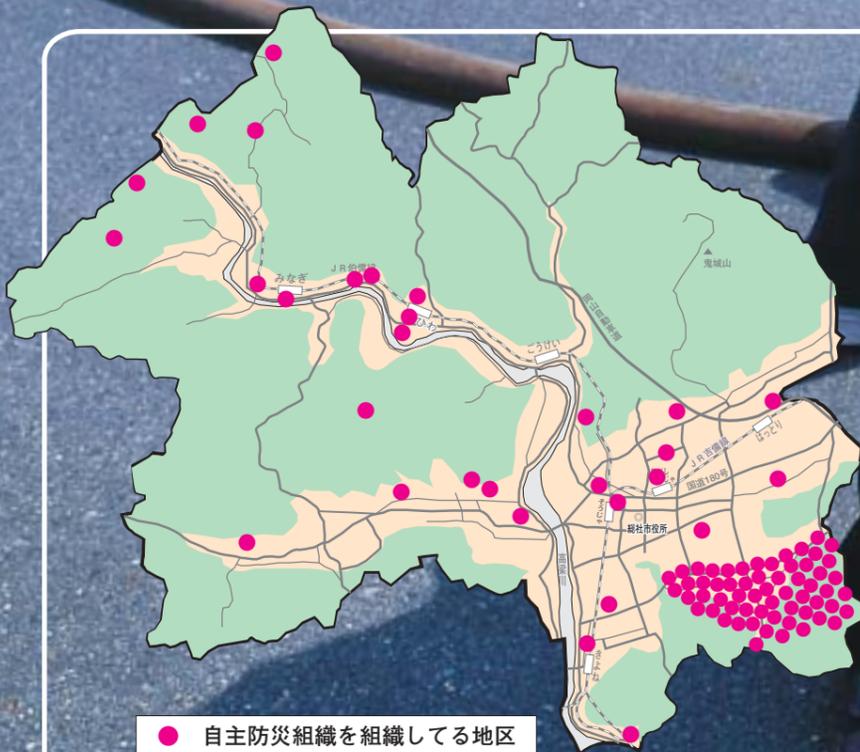
12.8%

●消火栓の使用訓練 (写真)

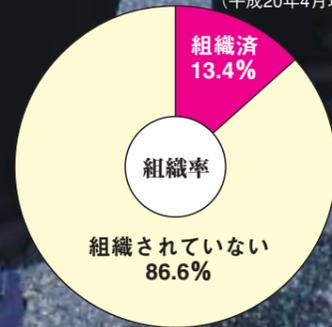
山手地区では、住民による初期消火ができるようにと、消火栓のそばにホースとノズル、開栓用のコックを備えている。写真は、7月13日、西郡地区で行われた消火栓の使用訓練の様子。参加者の一人、阿部和子さん(西郡)は「ホースのつなぎ方やバルブの開け方、放水時の水圧など、基本をきちんと知る良い機会でした」と、話してくれた。

答 総社市の自主防災組織の組織率

(今年1月現在)



■総社市の自主防災組織の組織率 (平成20年4月現在)



● 自主防災組織を組織してる地区

※地図には、地区のおおむねの位置を表示しています。  
山手地区は組織数が多いため、密集して表示しています。  
※平成20年4月現在

「」の数字は今年の『広報  
「そうじや」3月号でも  
紹介した数字です。  
自主防災組織とは、町内会  
や自治会などの単位で作ら  
れ、日ごろは、防災知識の啓  
発や防災訓練などに取り組  
み、大地震や洪水などの大規  
模な災害時には、避難の誘導  
や負傷者の救出・救護、炊き  
出しなどを行なう組織です。  
組織率は、加入している世  
帯数の割合。昨年4月時点で  
の自主防災組織の組織率は、  
全国平均が69.9%、岡山県  
内の平均が45.9%。総社市  
は、平成20年4月現在で13.  
4%です。現在、組織作りを  
進めている地域もあり、その  
割合は大きくなる予定です  
が、県内で低い状況には変わ  
りありません。

「」では、すでに活動中の  
組織や、今立ち上げようとし  
ている地区の人の声を紹介し  
ます。「自分の地域は、自分  
たちで守る」といった意識を  
もち、自主防災組織の必要性  
に関心をもってください。

大規模な災害時に、行政や  
消防、警察といった機関が、  
どこまで迅速な対応ができる  
かは分かりません。また、そ  
の活動にも限界があります。  
避難や救助活動が一刻を争う  
ときに、住民同士が連携・協  
力し合って、地域の被害を最  
小限に抑える自主防災組織の  
活動が求められています。

最近では中国の四川大地震  
や岩手・宮城内陸地震、岩手  
北部地震で大きな被害が報道  
されてきました。岡山県でも  
近い将来、東南海・南海地震  
で最大震度6弱の発生が懸念  
されています。地震だけでなく、  
近年は豪雨の回数も増え、  
水害も同様に懸念されていま  
す。

県内平均は45.9%